

本号のテーマ：「大切な命をはぐくむ」

三月は、花見月と呼ばれるほど、梅・桃・桜をはじめたくさんの草花が咲きはじめて来ます。佐久では、福寿草がかわいい顔をのぞかせています。学校では、別れと旅立ちの時を迎えています。そして、力強い新しい一步を踏み出す四月が待っています。生活や心の変化が大きい月です。子どもも大人も一生懸命に進もうとしています。お互いに声をかけ合い進みたいものです。

さて、小さな子どもの命が親の虐待によって奪われる事件。テレビや新聞の紙面で繰り返し報道されています。その度に胸が締め付けられる思いになります。訴えてくる子どもに対してしっかりと受け止めなければと心に刻みました。我が事として受け止め、もし佐久市で起こったとしたらと……もやもやした気持ちが続きました。子どもに関わる仕事をされている方と話す機会がありました。「佐久市は、どうだろうか?」「佐久市はすごいです。みんなで子どもを守る気持ちで進んでいます。一人では気づかないことも、多くの目を重ねて見る様に声を掛け合っています。」と即答で答えてくださいました。嬉しかったです。上記の事件について気をもんでいると、三つの事が頭に浮かんできました。



一つ目は、ニューヨークの友人を訪ねた時の事です。9.11の一年前の事でした。友人宅は、小さな子が四人いましたので、にぎやかな日々を送っていました。その子どもたちがバスタイムをキャッキョッと、楽しんでいた時のことでした。突然、玄関のドアを激しくたたく音がしました。隣人の男性が立っていました。「子ども達の叫び声が聞こえたが、何かありましたか?」隣人は、子ども達のはしゃいでいる声を子どもが虐待されているのではと、心配して止めに来たのでした。

アメリカでは、虐待という現象に、敏感になっていると感じました。アメリカでは、「おかしいと思ったら声をかける」のが当たり前になっていました。この頃、日本では虐待という言葉を目にするのはまだ少ない時代でした。

二つ目は、ご近所の二歳の女の子の話です。雨の日の朝、お母さんと一緒にゴミ出しのお手伝いをしていました。小さな傘をさしてレインコートを着て「よいしょ。よいしょ。」と掛け声をかけ歩いていました。この光景は、ほほえましく、ゴミステーションで会った人に「お手伝いをしてすごいね！」と褒められていました。さらに、ご近所の方はお母さんを褒めていました。「子どもと一緒にごみ出しをする。出来そうで出来ない事。お母さんはすごいですね。」女の子は、うれしそうにお母さんを見ていました。

子育ては大変です。「地域みんなで子育てをする。」その姿を感じる事ができました。

三つ目に、何年か前に「はなちゃんのみそ汁」という本が出版されました。私は、子どもたちに話したことを思い出しました。母親はガンで闘病生活を送りました。ガンがわかってから、「この子が生きて行くためにどうしたらいいか。」と思いを巡らせて、「味噌汁を上手に作れば大丈夫だ。」という考えに到達しました。その日から五歳のはなちゃんとの味噌汁作りが始まりました。小さな手でかつお節を削り、大根・人参などの色々な野菜を刻む姿が紹介されました。印象的だったのは、小さな足を力一杯に踏ん張り、包丁を使っている姿でした。小さな体から湧いてくる生きるエネルギーを感じさせられました。

子どもたちが生きていくには、物事の善し悪し・相手の気持ちを考えるなど学んでいくことはたくさんあります。育まれる命は、家族と一緒に生活していく中で、子ども自身が学びとっていきます。味噌汁をお父さんと一緒に作る事によって、食べ物の大切さや「おいしい」と飲んでくれるお父さんの想い、お母さんの想い、味噌汁一つ作る事によって人の生き方を学んでいたように思いました。

たった一つの大切な命。育まれるはずの大切な命。私は、もう一度子どもたちのために何ができるのだろうか。これからも常に自問しながら関わらせて頂きたいと思います。

子どもは、大人の姿を見て学びます。憧れ頼られる大人になるためには・・・これも日々自問します。

卒業式によく歌われる曲「旅立ちの日に」の一節です。

♪ いま 別れるとき 飛び立とう 未来信じて
弾む若い力信じて このひろい このひろい大空へ ♪

晴れやかに歌う子ども達の顔を大切にしていきたいと思います。

